

第 3 回日野市指定管理者市民評価委員会議事要点録

日時	平成 26 年 5 月 30 日（金）午後 1 時 30 分～午後 3 時 30 分
場所	市役所 4 階 庁議室
出席者	坪島委員、岩崎委員、斎藤委員、鈴木委員
議題	1. 評価 ・日野市立たまだいら児童館ふれっしゅ 社会福祉法人 雲柱社 ・日野市立みなみだいら児童館ぶらねっと 公益社団法人 社会教育協会日野社会教育センターの報告、質疑、採点 2. 全体まとめ
	●報告会の内容 ・指定管理者による報告 10 分 ・市民委員からの質疑（指定管理者） 20 分 ・市民委員からの質疑（主管課） 10 分 ・まとめ（採点） 10 分
議題 1	●評価 （1）日野市立たまだいら児童館ふれっしゅ ：指定管理者（社会福祉法人 雲柱社）による報告 ＝主な質疑（指定管理者）＝ （質問） 公園児童館「げんきっず」について、どこの公園で何人くらいの参加者があるか。 （回答） 多摩平第一公園を拠点に、夏には黒川清流公園、日野第五公園などで行っている。また、あさひがおか児童館と共催で、旭が丘中央公園で行うこともある。平均すると 40 組くらいの参加がある。 （質問） 高校に行かなかった子や、高校を中退した子の利用はあるか。 （回答） 高校に入ったが、辞めようか悩んでいる利用者もいる。そのような子供とのつながりを大切にしていきたい。 （質問） 都内の児童館では、縄跳びや鉄棒などできない子供たちに、親に代わって指導しているが、たまだいら児童館では行っているか。 （回答） ふれっしゅキッズ事業で、小学生の低学年を対象に、基本的な体の動作を教える活動を行っている。

(質問)

報告の中にあった、スケールメリットでの経費削減とはどういうことか。

(回答)

例えば、消耗品の紙など不足している施設があれば、雲柱社が運営している他の施設から工面したり、保育園で使用できなくなった遊具を修理し児童館へ渡す等、施設全体で調整することで経費削減を図っている。

(質問)

子ども実行委員でリーダーを育成した後、リーダーはどうしているか。

(回答)

中高生たちは、リーダーとして声をかけることによって、様々なイベントで活躍している。今までの関係を続けるために、細目に声をかけている。

(意見)

①3月に見直された日野市地域防災計画の中で、妊産婦と乳幼児の指定福祉避難所として、たまだいら児童館が指定されている。災害でガスや水道などが止まった際、お湯が沸かせることが必要である。普段からキャンプなどの野外活動で培った火起こしの技術を活かし、簡単にお湯が沸かせるような方法を、若い保護者や子供たちに事業を通じて指導してほしい。

②今までのように、地域を大切に密着した運営を行ってほしい。

③不登校になりがちな児童・生徒を根気よく見守る役割があるので、引き続き指導してほしい。

④ドッチボールなどで、同じようなケガが何度か起きている。対応は迅速に行われているようだが、今後は、事故が起きないような対策をしてほしい。

⑤子供や若い親の良い居場所であり、相談できる場所であるべき。

＝主な質疑（主管課）＝

(質問)

主管課の評価はどうか。

(回答)

大変よくやってもらっている。立地条件が良いこともあり利用者数が多い。これだけ多くの利用者に対しサービスを行うことは大変だが、効果的に運営を行っている。特に、実績にもあるとおり、地域とのつながりを大切に、幅広い方々と連携している。この成果が利用者の伸びになっている。

(質問)

他の児童館への影響はどうか。

(回答)

市直営の児童館では、雲柱社の事業運営を参考にすることもあり、日野市の児童館の全体的な底上げにもつながっている。

＝まとめ（採点）＝

●評価

(2) みなみだいら児童館ぷらねっと

：指定管理者（財団法人 社会教育協会日野社会教育センター）による報告

＝主な質疑（指定管理者）＝

（質問）

児童館では社会教育センターのノウハウを活かし事業を行っているか。

（回答）

社会教育センターで幼児教育を専門で行っているスタッフが、児童館の幼児の事業を担当している。また、お母さん向けのリフレッシュ講座では、ヨガやトランポリンを取り入れているが、普段社会教育センターで指導している先生を呼んでいるなど、連携しながら事業を行っている。さらに、リーダー育成でも、児童館の研修だけでなく、社会教育センターと合同で研修を行っている。

（質問）

小学生が楽しみながら防災体験をしたとあったが、具体的な内容はこういったものか。

（回答）

阪神淡路の震災の際に、現地のスタッフがモニタリングをして作成した、子供でも楽しめるプログラムを採用している。具体的には、車のジャッキを使用して救出活動したり、バケツリレーや毛布でタンカを作るなど、ゲーム性を持たせ、家族でも楽しめる内容としている。

（質問）

平成 26 年に高校生の入場が大きく減っているが、どうしてか。

（回答）

多くの子供達が高校 3 年生であったこともあり、卒業により減少した。現在は、下の学年の高校生達が徐々に増えている状態である。なお、高校を卒業した子供達は、リーダーとして活躍し、現在も児童館とつながっている。

（意見）

- ①看板など、目印があると利用者が迷わず行くことができるのではないか。
- ②スタッフの対応が以前より良くなり、親切に施設を案内してくれた。また、館内の写真や装飾が綺麗に飾ってあったので良い印象であった。
- ③利用者の声を聴いたが、とても楽しく利用しているとのことであった。
- ④給湯器のふきんなど、衛生管理を徹底すること。
- ⑤利用者の声にもあったが、飲料の自動販売機があるといいのではないか。
- ⑥3 月に見直された日野市地域防災計画の中で、妊産婦と乳幼児の指定福祉避難所と

議題 2	して、みなみだいら児童館が指定されている。災害でガスや水道などが止まった際、お湯が沸かせることが必要である。普段からキャンプなどの野外活動で培った火起こしの技術を活かし、簡単にお湯が沸かせるような方法を、若い保護者や子供たちや地域の方に対し事業を通じて指導してほしい。 ⑦施設の規模からすると、利用者が少ない。利用者を増やす工夫をしてほしい。 ⑧子供や若い親の良い居場所であり、相談できる場所であるべき。 =主な質疑（主管課）= （質問） 主管課の評価はどうか。 （回答） ①利用人数は少ないが、一人ひとりの子供達に寄り添い、地道に運営している。同じブロックの基幹型ひらやま児童館が、年間 2 万人台の利用者で、みなみだいら児童館と同等であるので地域性が大きく影響していると考える。 ②外に向けての発信力を強めたいってほしい。 ③事故もあるが、市への事故報告や保護者への対応をしっかりと行っている。 =まとめ（採点）= ●全体まとめ 今回の評価委員会は、平成 22 年度もしくは平成 24 年度に指定管理者に選定された施設について、指定期間のうち、既に終了している平成 22 年度から平成 25 年度の 4 年間もしくは平成 24 年度から平成 25 年度の 2 年間の実績を基に審査及び評価を行った。 委員会では、事業者への質疑、主管課への質疑を行い管理及び運営についてチェックをした。 どの指定管理者も、一定の成果を上げていると評価できる。 残り少ない期間になるが、要望、意見として取り上げたいいくつかの点についても取組み、更なる市民サービスの向上に努めていただきたい。 また、これからの指定管理者は災害時の帰宅困難者の受入れなどの災害時の対応を考えていただきたい、地域とのつながりを大切にしていきたい、指定管理者から提出される事業報告書にある収支決算書の様式を統一し、比較しやすくしていただきたいなどの意見もあったので、検討していただきたい。 ～第 3 回日野市指定管理者市民評価委員会終了～
-------------	--